欧州特許庁（EPO）、Mistral AI と戦略的協業

２０２６ 年 ３ 月 ２６ 日

JETRO ﾃﾞｭｯｾﾙﾄﾞﾙﾌ事務所

欧州特許庁（EPO）は 2026 年 3 月 11 日、先端 AI 分野の“欧州”企業である Mistral AI との戦略的協業の成果として、両者が共同開発した特許文書処理向け AI ソリューションを公表した。本協業は、欧州におけるイノベーション加速、公共サービスの高度化、競争力強化を目的とするものである。

EPO の専門家と Mistral AI の技術チームは密接に連携し、Mistral AI が開発した最先端の光学文字認識（OCR）技術を EPO の業務ワークフローに統合した。これにより、欧州特許出願の高品質な処理を、AI 技術によってさらに強化することが可能となった。

- 複雑・多言語の特許文書に特化した OCR モデル

本イニシアチブは、EPO が直面する特有の課題、すなわち、数式、化学構造式、画像、表、配列リストを含む、複雑かつ多言語の文書を大量に処理する必要性に対応するものである。これらの要素は、従来の標準的な OCR 技術では高精度な処理が困難であった。
今回開発された OCR モデルは、特許出願文書の特性に合わせて微調整されており、データ抽出精度を大幅に向上させることで、特許付与プロセスにおけるコンテンツの構造化をより効率的に行うことを可能にする。

- 欧州内での開発・展開と今後の展望

本ソリューションは欧州内で共同開発・展開されており、EPO は、欧州の法的・運用上・倫理的枠組みに準拠した形で、機密性の高い特許情報を処理できる体制を強化したとしている。

今後、EPO と Mistral AI は、実運用から得られるフィードバックを基に、ソリューションの拡張およびモデルの継続的な改良を進める予定である。

本取り組みは、EPO の AI Policy および Strategic Plan 2028 にも整合しており、デジタルトランスフォーメーションを通じた業務品質と効率性の向上を目指す施策の一環と位置づけられている。

今回の取り組みについては、SNS 等での関係者の発信内容を踏まえる限り、あくまで推測の域は出ないものの、EPO が保有する膨大かつ複雑な特許文書群を「AI-ready」なデータへと転換することを強く意識した施策であると考えられる。

その狙いは、欧州主導の形で、自動分類や AI による事前サーチ等の審査支援技術を本格展開するための基盤を整備し、特許行政全体のデジタル変革を次の段階へ進める点にあると位置づけられる。

－EPO のプレスリリース等は、以下参照 －

（プレスリリース）

https://www.epo.org/en/news-events/press-centre/press-release/2026/1362048

－EPO の AI に関する欧州知財ニュースは、以下参照 －

- 欧州特許庁（EPO）、AI 支援による議事録作成を全口頭審理に拡大へ（2026 年 1 月 13 日）（PDF）
- 欧州特許庁（EPO）、2026 年年間作業計画を公表（2026 年 1 月 14 日）（PDF）